

"ジャパン体験" 熱気の1400人

ポーアイで開かれた国際免疫学会。グループわが展開した日本文化の体験教室には、40か国から1400人を超す“お客さん”があり、興奮と熱気に包まれた5日間となりました。先生役として通訳係として接待係として、フル回転したスタッフは延べ200人。奮闘ぶりをふりかえってみました。（広報担当・南形徹）



ボランティア最前線

生け花・着物...国際会議で文化教室 世話係で200人奮闘

教室は日替わりで、8月23日は生け花。24日は習字。25日は着付け、26日は折り紙。午前と午後に分け1日50人を目安にしましたが、飛び入りも多くスタッフはてんてこ舞い。和風喫茶は連日開店。お釜を持ち込み、大正琴の調べを流し、床机で抹茶を味わってもらいました。

●ロシアのアンちゃん 母親が会議に出てしまって和風喫茶の横で寂しそうなロシアのアンちゃん、10歳。通訳係の芳賀順子さんが「どうしたの？こちらへいらっしゃい」とやさしく声をかけ、床几に。いやがっていたのに、お菓子を食べ、抹茶を飲む頃にはすっかり芳賀さんになつき、にこにこ顔。抹茶の味は？の問いに、とまどった様子で「エクセレント！」。

「生け花や折り紙など、細かい説明があるので、かなり事前勉強が必要だった。英語圏以外の方も相当いてまいりましたね」とチーフの加藤隆哉さん。なごやかに、スムーズに国際交流ができたのも、通訳陣の活躍によるところが大でした。

●生け花で日本ムード フラワーはどここの国の女

性にも大人気。自分流にイケた作品は、名札をつけて喫茶の周りに飾られ、会期中、行き交う人たちの目を楽しませてくれました。

福井慶子さんらが持ち込んだ花器はざっと60点。用意した花材は50種200本以上。この季節、これだけの種類を用意するのは大変で、花屋だけでは足りず、「自分たちで探し回りました」と。

●「花」の字が躍る 習字の生徒は70人。お手本に従って「花」という字に取り組みました。案外すらすら書く女性、子ども。筆を持つのにてこずる男性。自分の作品は先生の講評を受けて、お土産に。谷河博司さんは「書き順はめちゃくちゃだけど、みんな楽しんで書いていましたよ」。

●KIMONOに殺到 予定の3倍160人が殺到。壁面にずらりかけられた着物は60着。好きなものを選ぶのですが、女性陣、なかなか決まりません。男性や子どももいます。TシャツやGパンの上からなので少々窮屈そうですが、帯を締めてもらってできあがり。姿見の前でハイ、ポーズ。「きれいに撮ってね」。通訳係も大忙しです。「長じゅばんだけ着たらいい、という女性もいて、少しがっかり」とは汗だくの増金スミ子さん。増金さんは、ロビーで南京玉すだれも披露。変わったパフォーマンスに拍手喝采が。